



2014 46th
MFJ GRAND PRIX
SUPERBIKE RACE in SUZUKA



2014全日本ロードレース選手権最終戦 鈴鹿MFJ-GP 参戦報告書

スタートグリッド レース1 10位 レース2 8位
決勝 レース1 リタイヤ レース2 12位

- ゼッケン/エントリー名 : #01 / シナジーフォース TRICK STAR
- 監督 : 鶴田 竜二
- ライダー : 出口 修
- 開催日 : 11月1日(土)~11月2日(日)/鈴鹿サーキット(三重県)
- マシン : カワサキZX-10R
- 結果 : レース1 予選10位 決勝リタイヤ
レース2 予選8位 決勝12位

Synergy Force TRICK STAR、全日本ロードレース選手権、今年最後のレース MFJ-GP鈴鹿大会。例年通り、事前合同テストが開催されない代わりに、木曜日に特別スポーツ走行時間が設けられた。チームは10月初旬にプライベートテストを岡山国際サーキットで行い、鈴鹿入りした。今回の決勝は2レース行われ、予選はノックアウト予選で、Q1 40分間全車タイムアタックしレース1のグリッドが決まり、Q1トップ10台がQ2 15分間のTOPチャレンジを行いレース2のグリッドが決定する。出口修選手にとって鈴鹿サーキットは鈴鹿8時間耐久以来の走行ではあるがホームコースとも言えるので、焦らず着実にマシンを仕上げる様にレースウィークを組立てていく。



10月30日(木) 特別スポーツ走行 11:15~11:45
15:30~16:10

天候 : 晴れ→曇り
路面 : ドライ
気温 : 18℃→22℃
湿度 : 45%→45%
路面温度: 26℃→23℃

午前中の走行枠、走り出しは本番車から行う。30分間と短い走行時間だが、マシンチェックを行い、路面温度26℃に合わせたタイヤ選定も確認する。
午後はスペアマシンのマシン確認と引き続きタイヤ選定を行う。





10月31日(金)

公式練習1回目
11:00~11:30

天候 :曇り 時折小雨が降る
路面 :ドライ
気温 :22℃
湿度 :60%
路面温度 :21℃

午前中の走行時間、天気予報では雨の確率が高かったがパラパラ小雨が降る程度で、貴重なドライ路面でテストが行えた。マシンセッティングを推めていくと同時にタイヤ選定も行い、ライダー・出口修選手の要求・フィーリングに合ったリアタイヤが選べる事が出来た。

公式練習2回目
15:45~16:20

天候 :小雨
路面 :ウェット
気温 :20℃
湿度 :80%
路面温度 :20℃

練習走行開始前に雨が降り出し、路面はウェットに。マシンセッティング、雨量を判断しながらアジャストし、走行開始。タイムモニター4番手に表示される。ピットインしセットを再度アジャストしコースイン。アジャストが良い方向でモニター2番手に表示される。その後、違ったセットも試しながら走行とピットインを繰り返したので、走行終了時は6番手の結果に。天気予報から翌日の予選も雨だと予想できるので、ライダーコメントと走行データから更にタイムアップするマシンセットを模索していく。



11月1日(土)

Q1 ノックアウト予選
13:20~14:00

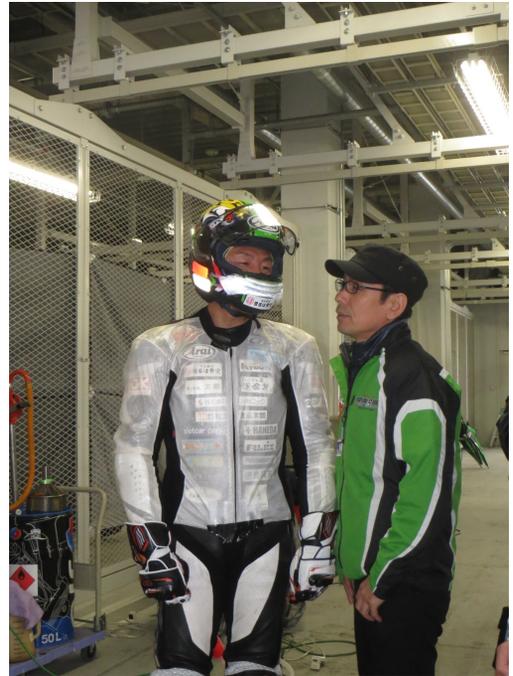
天候 : 雨
路面 : ウェット
気温 : 17°C
湿度 : 90%
路面温度 : 17°C

土曜日は朝から雨でウェットコンディション。前日の走行と同じウェットでも雨量が多く、予選Q1の40分間を有効に使いセッティングしていく。予選時間が残り少なくなると各車タイムアップしてくる。残り時間1分までは12~14番手だったが、出口修選手は最後まで集中力を切らず事無く、予選終了を告げるチェッカーを受ける最終ラップにタイムアップし10番手にポジションアップ。予選Q2に進む。

Q2 TOP10チャレンジ
14:10~14:25

天候 : 雨
路面 : ウェット
気温 : 15°C
湿度 : 85%
路面温度 : 17°C

Q1のトップ10台で行われるQ2トップ10チャレンジ。Q1の出口選手のコメントからセッティングをアジャストし、走行開始。15分間しか走行時間が設けられていないので計測1周目から攻めて行き2番手のタイムを記録するが他車もタイムアップしていく。そんな中、#71加賀山選手が目の前で大転倒してしまう。巻き込まれそうになりながらも避けることができ、走行を続けるが雨量の変化に伴いマシンセットが合わなくなり、結果Q2を8番手で終了する。明日の決勝レース1は10番手から。レース2は8番手からのスタートとなる。



11月2日(日)

ウォームアップ走行 8:25~8:50

天候 : 曇り
路面 : ウェット
気温 : 20℃
湿度 : 36%
路面温度 : 20℃

天候は曇りだが、昨晚の雨の影響で路面はウェット。難しいコンディションだが決勝レースを見据えて走行する。総合4番手のタイムを記録し走行終了。

決勝 Race1 11:00~ 15Lap→13Lap

天候 : 曇り
路面 : セミウェット
気温 : 20℃
湿度 : 70%
路面温度 : 22℃

決勝前にウェット宣言が出され15周から13周に。出口修選手、スタート後懸命に攻める走りを見せるがセクタータイムが上がってこない。1周目から15番手を走行する。先行する#75武石選手がジャンプスタートでストップ&ゴーペナルティを取られ14番手に上がる。しかし、マシンの挙動に違和感を感じ出口選手の賢明な判断で9周目にピットイン。そのままレース1は終了する。チームは午後からのレース2に向けマシンチェックを行う。

決勝 Race2 15:05~ 15Lap→10Lap

天候 : 雨
路面 : ウェット
気温 : 19℃
湿度 : 84%
路面温度 : 18℃

JSB決勝レース2の前に行われたGP2クラスのスタート前に雨が降り出し進行も遅れ、レース2の決勝は10周に変更される。決勝レース2のスタートは決まると見れたが、セクター通過順位が上がらない。1周目終了時点でポジション12。前に野左根選手。2周目に野左根選手を抜き11番手に。4周目MCシケインで高橋選手がマシンストップ。しかしタイムが上がらず苦しい展開になり13番手を走行。8~9周目、安田選手を追いかけていく。最終LAP安田選手を抜き12位でゴールする。



【ライダー 出口修 コメント】

全日本最終戦鈴鹿、沢山の応援有難う御座いました。レース1は、序盤からマシンのリアに問題が発生、徐々に悪化する症状に危険を感じ9周目に入った所でピットイン。対策を施し問題点を確認しようと再スタートを試みましたが、東コースショートカットでのピットインはリタイヤ扱いとなり、残念ながら問題点を確認出来ずに終了となりました。

ウェットコンディションで迎えたレース2。予選Q1・10位、Q2・8位、決勝朝フリーで4位と、ウェットコンディションでの電子制御のセッティングが進むにつれタイムが上がり、決勝に向けて更に調整が出来ていたので本気で表彰台を狙いに行きましたが、スタートでミスをしたのに加え、レース中のタイムが上がるとウェットでは出ていなかったドライコンディションでの車体フロント周りの大きな問題が発生した事でタイヤの接地感を得られず、ペースを上げられないまま我慢のレースで12位と言う結果に終わってしまいました。

レギュラー参戦チームは、こういった問題やセッティングの課題を毎レース、テストでこなし日々進化しています。ファクトリー系のマシンが数多く参戦する近年において、スポット参戦のプライベートチームが簡単に上位進出できるほど甘い世界ではないと改めて痛感しました。ただ、レース直前まで我々にスピードが有るというアピールは出来たかと思えます。

今シーズンのレーススケジュールも全てが終了致しました。

怪我と病気に悩まされスタートしたシーズンでしたが、多くの方の励ましやサポートを受けまして無事に終了する事が出来ました。

シナジーフォース・ジャパン株式会社様を始め、スポンサー各社様、関係各社様、ファンの皆様、D-036の皆様、友人、家族、出口修に関わって下さった全ての皆さんに心から感謝いたしております。

1年間戴いたあたたかいご声援、本当に有難う御座いました。





【監督 鶴田竜二 コメント】

全日本選手権最終戦MFJ-GP鈴鹿ラウンドが終了いたしました。

レース1・レース2とも本来の思い切った走りがさせられなかった事についてとても残念に思います。

ここ近年雨のレースでは4位に2度になっており、今回こそはと思っていたのですが、決勝においてこんな事が起こるなんて実に口惜しいです。

今後に向けてしっかり検証し、次回からのレースに活かして行きたいと思います。

昨年のこのレースにおいて出口選手は少し無理をして最終ラップに転倒し怪我をしてしまった経験から、無理をしてはいけない状況のなかで冷静に判断しゴールを迎えたことにより次に繋げて行ける事と思います。

ですからこうしてシーズンを無事に戦い終えたことについては納得しております。

最後になりましたが、シーズンを通してシナジーフォース・ジャパン株式会社様、GTA construction様、JBR-Mot orcycle株式会社様、住友ゴム工業株式会社様、NUTEC Japan Co.,Ltd様、カワサキモータスジャパン株式会社様、はじめ各スポンサー様、そしてチームスタッフ、モトハウスグループ社員、御関係者様には大変お世話になりました。

ファンの皆様の応援にも支えられ何とか今年も走りきる事が出来ました。本当に感謝しております。

そしてTRICK STARレーシングに関わった全ての皆様、ありがとうございました。

我々のチャレンジは続きます。

今後とも、引き続き宜しくお願い致します。

